



浦幌での学びをふるさとに：
「うらほろスタイル」から学ぶ地域教育開発専攻地
域教育分野の「地域創造型教師」養成の取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮前, 耕史, 今西, 宏実, 竹本, 朱里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00008523

浦幌での学びをふるさとに —「うらほろスタイル」から学ぶ地域教育開発専攻地域教育分野の 「地域創造型教師」養成の取り組み—

宮前 耕史・今西 宏実・竹本 朱里

北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻地域教育分野

To Make Use of Our Learning in Urahoro to Our Hometown

-The Challenge of Department of Community Education for Training “Community
Creation Teachers”

MIYAMAE Yasufumi, IMANISHI Hiromi, TAKEMOTO Akari

Department of Community Education, Hokkaido University of Education, Kushiro Campus

要旨

北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻（平成27年度より地域・環境教育専攻）地域教育分野では、「うらほろスタイル推進地域協議会」（北海道十勝郡浦幌町）と連携し、体験学習の機会を数多く設けることにより、これからの地域社会、とりわけ農山漁村における学校と地域の関係のあり方や、教師・学校の役割を「学校の外」—地域の側から問い直していく新たな「地域に根ざした教師」像—「地域創造型教師」養成に向けた授業改善に取り組んでいる。同協議会では、「うらほろスタイル」による地域づくりの成果や進捗状況を町民および関係者と共有するため、毎年冬季に「うらほろフォーラム」を開催しているが、地域教育分野では、「うらほろフォーラム」において学生たちが「うらほろスタイル」からの学びの成果を発表する機会をいただいている。今年度（平成27年度）にあっても「うらほろフォーラム2016」（平成28年2月7日（日）開催）において、浦幌小学校で教育実習を受け入れていただいた学生2名が、学生代表として2年間にわたる学びの成果を発表させていただいた。本稿は、当日の口頭発表を文字化したものである。

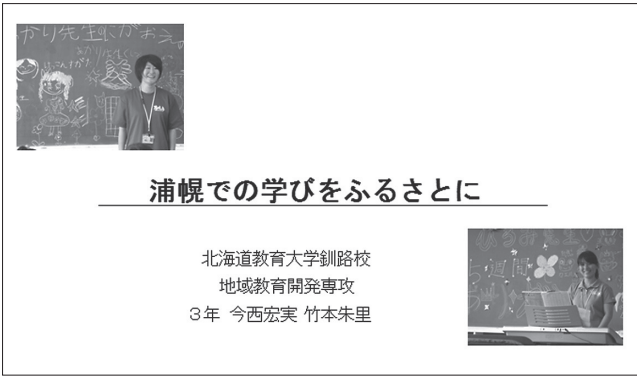
はじめに

北海道十勝郡浦幌町では、町内小・中学校の教員と保護者、町・町教委、町内各種団体や企業・NPO、地域住民が結び付き、「うらほろスタイル推進地域協議会」を組織して、「子どもを軸」に「学校を舞台」に、地域の持続可能性の実現を目指して「うらほろスタイルふるさとづくり計画」（以下「うらほろスタイル」）を展開している⁽¹⁾。同計画は、学校・地域住民の「協働」に基づく「地域とともにある学校づくり」の先進事例として関係者による全国的な注目を集めている〔学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議2013〕〔コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議2015〕。

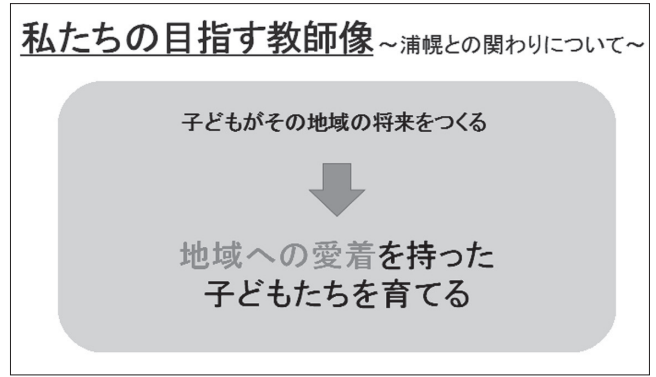
北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻地域教育分野

（平成27年度より地域・環境教育専攻）では、分野所属教員4名（北澤一利・平岡亮・諫山邦子・宮前耕史）全員の協同により、「うらほろスタイル推進地域協議会」と連携し、体験学習の機会を数多く設けて地域教育に関する理論と実践とを学生自身が統合することにより、これからの地域社会、とりわけ農山漁村における学校と地域の関係のあり方や、教師・学校の役割を「学校の外」—地域社会の側から問い直していく「地域創造型」教師養成に向けた授業改善に取り組んでいる⁽²⁾。

一方、浦幌町では、「うらほろスタイルふるさとづくり計画」の成果や進捗状況を町民および関係者と共有するために、毎年冬季に「うらほろフォーラム」を開催しており、ここで学生たちが「うらほろスタイル」からの学びの成果を発表する機会をいただいている⁽³⁾。今年度（平成27年度）の場合にあっても、浦幌小学校で教育実習を受け入れていただいた学生2名が、浦幌町教育文化会館で開催された「う



【図1】「浦幌での学びをふるさとに」

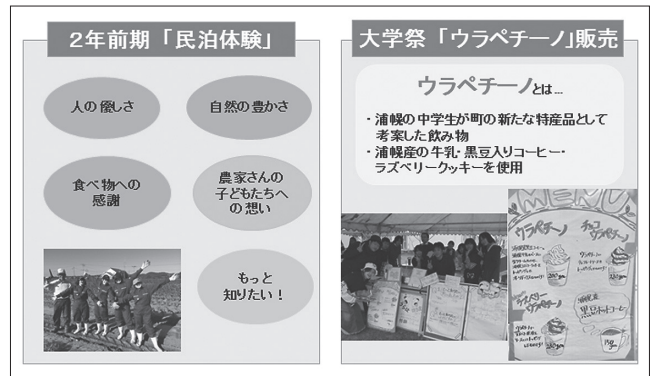


【図2】私たちの目指す教師像

取り組みの全体像	
前期（4～7月）	後期（10～12月）
2年 ○子どもの立場から 「うらほろスタイル」を体験 ・バスツアー/民泊体験（5～6月） ・民泊体験発表会（感想交流会）	○学校と地域の連携について考える ・浦幌中学校「町活性化案発表会」見学 ・求められる教師の資質についての講義 （浦小・水野校長）
3年 ○地域の大人の立場から 「うらほろスタイル」に参加・体験 ・「子どもの想い実現WS」参加・手伝い ex「浦幌新聞」執筆、大学祭での ウラペチーノ販売等	○教師として学校の中から 「うらほろスタイル」に参加・体験 ・教育実習（浦幌小学校） ・「うらほろスタイル」による授業づくりに関する 講義（浦小・小泉教諭、上浦小・野上校長、 佐藤教諭）
4年 ○進路決定・採用試験	○卒業論文

浦幌通乗（学）合宿【市街地：7月5日～8日、上浦幌：11月15日～18日】

【図3】取り組みの全体像



【図4】民泊体験と「ウラペチーノ」販売

らほろフォーラム2016」（平成28年2月7日（日））において発表を行う機会をいただいた⁽⁴⁾。本稿は、これを文字化したものである。

浦幌での学びをふるさとに

今西宏実・竹本朱里

はじめに

こんにちは。北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻地域教育分野3年、今西宏実です。同じく竹本朱里です。私たち二人は、浦幌小学校で5週間の教育実習をさせていただきました。浦幌小学校の先生方を始め、これまでにもたくさんの方々にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

本日は、今まで「うらほろスタイル」に関わらせていただいていた学んだこと、また今後、私たちが教師としてそれらをどう活かしていきたいと考えているか、お話をさせていただきます【図1】。

1. 私たちの目指す教師像

はじめに、私たちの目指す教師像についてです。私たち北海道教育大学地域教育開発専攻地域教育分野の学生は、

子どもや地域の方々とともに地域の未来をつくるという意志を持ち、地域への愛着を持った子どもたちを育てる教師になることを目指しています。

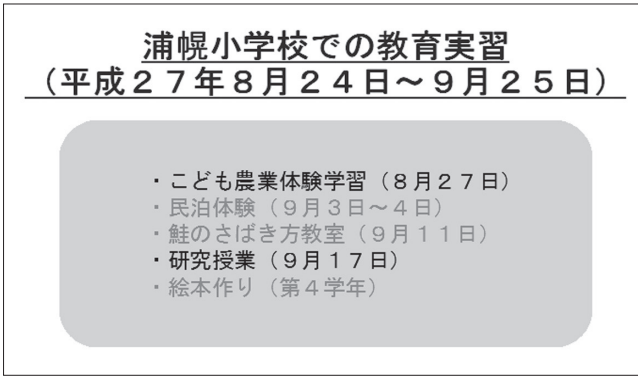
そしてそのためにはどうすべきなのかを、学校が地域と連携し、地域への愛着を育む活動をしている「うらほろスタイル」を通して学ばせていただいています【図2】。

2. 取り組みの全体像

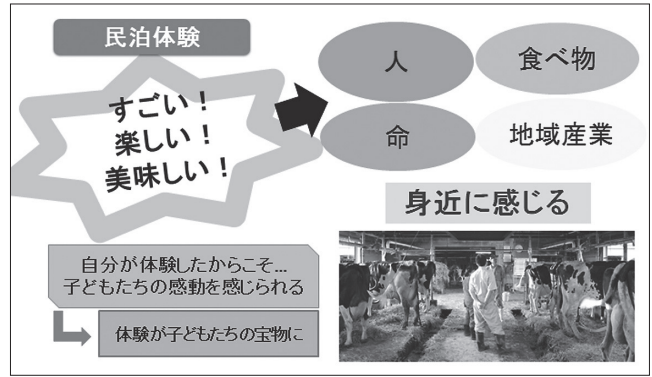
具体的に、「うらほろスタイル」とどのように関わらせていただいているか、紹介させていただきます。まず、2年生の前期に子どもの立場から「うらほろスタイル」を体験ということで、私たちも浦幌の小学生が体験するのと同じように、バスツアーや民泊体験に参加させていただきました。

また、民泊体験を通して学んだこと、感じたことを体験したものと士で交流する機会もありました。2年生の後期には、学校と地域の連携について考えるということで、浦幌中学校の「町活性化案発表会」を見学させていただいたり、求められる教師の資質について浦幌小学校の水野校長にお話を聞かせていただいたりしました。

3年生の前期には、地域の大人の立場から「うらほろスタイル」に参加・体験ということで、「子どもの想い実現ワークショップ」へ参加させていただいたり、「浦幌新聞」の執筆や大学祭でのウラペチーノの販売をさせていただ



【図5】 浦幌小学校での教育実習



【図6】 民泊体験

たりしました。

3年生の後期には、教師として学校の中から「うらほろスタイル」に参加・体験させていただくということで、今年度は、私たち二人が浦幌小学校で実習をさせていただきました。そして、浦幌小学校の小泉先生、上浦幌中央小学校の野上校長、佐藤先生に「うらほろスタイル」による授業づくりに関するお話を聞かせていただきました。

今後、4年生の前期には進路決定、採用試験、後期には卒業論文がまっています。今までの経験を活かしてこれらのごことに取り組んでいきます（【図3】）。

3. 民泊体験と「ウラペチーノ」販売

私たちの取り組みの中から二つ、紹介させていただきます。

一つ目は、子どもの立場から体験した浦幌町での民泊体験です。1泊2日の民泊体験をして、浦幌の「人」の優しさ、自然の豊かさを感じ、さらには命をいただいていると実感することで食べ物への感謝の気持ちをもつようになりました。また、農家の方の浦幌の子どもたちへの想いもうかがうことができました。そして、私たちが浦幌のことをもっと知りたいと思うきっかけとなりました。

二つ目は大学祭での「ウラペチーノ」販売です。ウラペチーノとは、浦幌の中学生が町の新たな特産品として考案した浦幌産の牛乳・黒豆入りコーヒー・ラズベリークッキーを使用した冷たい飲み物です。今年は、販売するだけでなく、私たちの浦幌での活動を紹介しました。当日は雪も舞うような寒さでしたが、たくさんの方が買ってくれて浦幌のごとも知ってもらえたのではないかと思います（【図4】）。

4. 教育実習

ここからは、浦幌小学校で私たちが、教育実習をさせていただいたことについてご紹介します。

実習中は、教壇実習や研究授業だけでなく、こども農業体験学習、民泊体験、鮭のさばき方教室など浦幌ならではの授業、行事にも参加させていただきました。また、今西

は教壇実習の一環として、絵本作りもさせていただきました。本日は、これらの中から民泊体験、鮭のさばき方教室、絵本作りについてお話させていただきます（【図5】）。

(1) 民泊体験

2年生の前期に、私たちも浦幌町で「子どもたちの立場」から民泊体験を体験させていただきました。教育実習では教師の立場から、民泊をしている子どもたちの様子を見るという体験をさせていただきました。子どもたちは、「すごい!」「楽しい!」「おいしい!」と感じる体験を通して、浦幌の人・食べ物・命・地域産業を身近に感じられると思いました。

また、自分たちが子どもと同じ立場で民泊を体験したからこそ、子どもたちの感動を肌で感じられ、この体験が子どもたちの宝物になると思いました（【図6】）。

(2) さけのさばき方教室

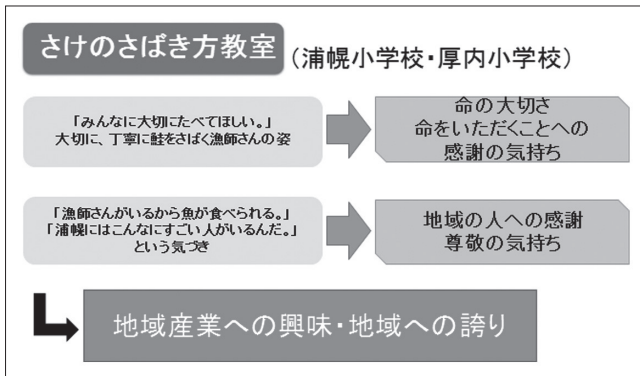
浦幌小学校・厚内小学校の6年生を対象としたさけのさばき方教室も参観させていただきました。はじめは遠くから見ていた子どもたちも、どんどん積極的になり、鮭を切ろうとしている姿が印象的でした。

「みんなに大切に食べてほしい。」「自分たちが取ってきた鮭だよ。」などと説明しながら大切に丁寧に鮭をさばく漁師さんの姿を見て、子どもたちが命の大切さを実感し、命をいただくことへの感謝の気持ちを持つのではないかと思います。また、漁師さんが鮭をさばく姿を直接子どもたちが見ることによって、「漁師さんがいるから魚が食べられるんだ」「浦幌にはこんなにすごい人がいるんだ」と気付き、地域の人への感謝と尊敬の気持ちを持つことにつながるのではないかと思います。

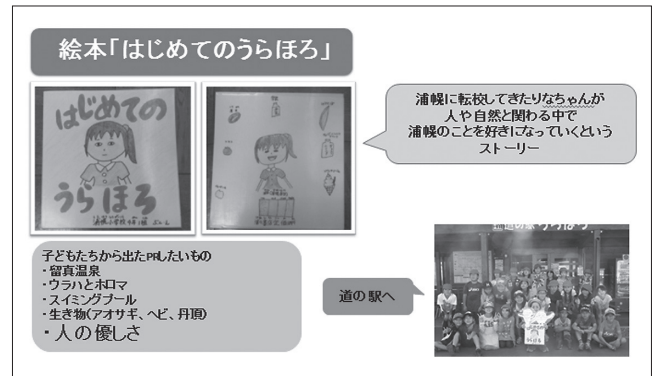
こうした子どもの気づきが、地域産業への興味・地域への誇りにつながると実感しました（【図7】）。

(3) 絵本「はじめてのうらほろ」

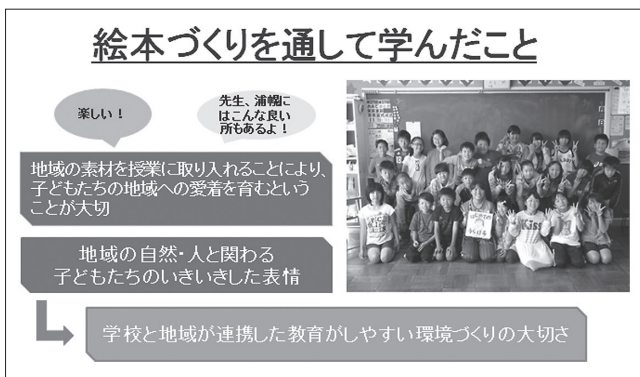
次に、4年生と総合的な学習の時間の一環として作った絵本「はじめてのうらほろ」のことを紹介させていただきます。この絵本のあらすじや、主人公の名前、服も子ども



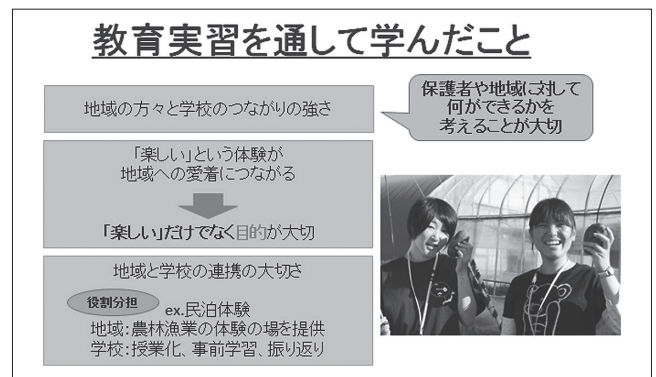
【図7】 さけのさばき方教室



【図8】 絵本「はじめてのうらほろ」



【図9】 絵本づくりを通して学んだこと



【図10】 教育実習を通して学んだこと

たちみんなで決めました。物語の内容は、浦幌に転校してきたりなちゃんが、人や自然と関わる中で、だんだん浦幌を好きになっていくというストーリーです。あらすじを考えていく時に子どもたちにPRしたいものを聞き、黒板に書ききれないくらいたくさん言葉がでました。多数決で5つ決めたのですが、一番印象的だったのは「人の優しさ」という言葉があったことです。地域の人にあたたかく見守られているということを子どもたちが実感していると思いい、子どもたちと地域が深く関わる浦幌ならではの感じました（【図8】）。

「楽しい！」「先生、浦幌にはこんな良い所もあるよ！」という子どもたちの声から、地域の素材を授業に取り入れることにより、子どもたちの地域への愛着を育むということが大切だと改めて実感しました。また、普段の学校生活とは違う、地域の自然・人と関わる子どもたちのいきいきした表情を肌で感じ、学校と地域が連携した教育がしやすい環境づくりの大切さを実感しました（【図9】）。

完成した後は道の駅に置いていただくようお願いし、昨年（平成27年）の12月まで置かせていただきました。本日は、会場にも展示させていただいておりますので、ぜひたくさんの方に見ていただければ嬉しく思います。

5. 教育実習を通して学んだこと

教育実習を通して、地域の方々と学校のつながりの強さ

を感じました。保護者や地域に対して何ができるかを考えることが大切であるという水野校長のお話が印象に残っています。そのような気持ちでいることが、良い関係を築くためには重要なのだと思いました。

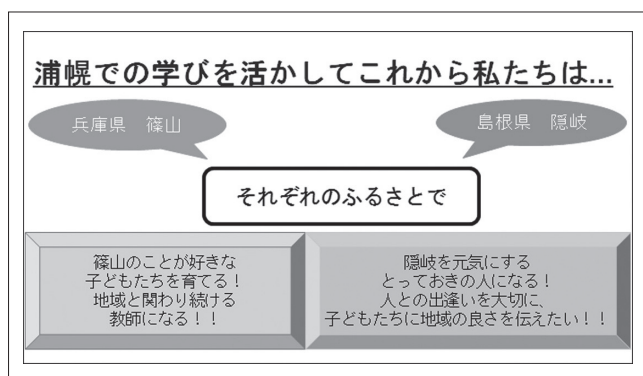
また、楽しい！という体験が子どもたちの地域への愛着につながると感じました。だからこそ、ただ、楽しかったという思い出だけで終わらないように、目的をしっかり持つことが大切であると思いました。

さらに、地域を活かした授業をする際の地域と学校の連携の大切さも実感しました。地域と学校で役割分担を行うことが必要であると思います。例えば、民泊体験において地域は農林漁業の体験の場を提供、学校、教師はそれを授業にして、その学びに応じた事前学習と振り返りを行うように、役割分担ができるのではないかと思います（【図10】）。

6. おわりに一浦幌での学びをふるさとに活かす

最後に、浦幌での学びを活かしてこれから私たちがどうしていくかについてお話させていただきます。私たちは、浦幌での学びをそれぞれのふるさとにつなげていきたいと考えています。

私（今西）は、兵庫県の篠山という所で生まれ育ったのですが、子どもたちに篠山の良さに気付いてほしいという想いがあり、将来、篠山のことが好きな子どもたちを育て



【図11】浦幌での学びをふるさとに活かす



【図12】おわりに

たいと思います。また、教師だからといって学校だけに閉じこもるのではなく、積極的に地域と関わり続ける教師になりたいです。

私（竹本）は島根県の隠岐の島出身です。私は隠岐が大好きです。大好きな隠岐をもっともっと元気にしたいと思っています。だから、私は、隠岐を元気にする「とっておきの人」になりたいです。浦幌でたくさんの方々に関わらせていただき、人の温かさ、人と関わることの楽しさを感じました。これからも、たくさんの方々との出逢いを大切に、子どもたちに地域の良さを伝えていきたいです。

これで私たちの発表を終わります。これからもいろいろな場面でお世話になるとは思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

⁽¹⁾ 「うらほろスタイルふるさとづくり計画」の成り立ちや特徴等については〔添田・近江・中村・宮前・高木・今泉2013〕〔添田・宮前・平岡・近江・阪野・野村2014〕〔宮前2013〕〔宮前2015〕参照。

⁽²⁾ 「地域創造型教師」のアイデアや取り組みの全体像については、本稿の他〔宮前・添田2012〕〔宮前・添田2015〕〔宮前2016〕参照。

⁽³⁾ 注5でも述べるように、地域教育分野では「うらほろスタイル推進地域協議会」と連携した取り組みを、「アクティブ・ラーニング」「課題解決型学習」Project Based

Learningと位置付けている。「うらほろフォーラム」での学生による発表は、いわばその出口として重要な意義をもつものと考えている。

⁽⁴⁾ 従来においても同様の機会をいただいている（「うらほろフォーラム2013」「うらほろフォーラム2014」「うらほろフォーラム2015」）。これらについては、〔宮前・小林・栗本2013〕〔宮前・渡邊・上山2014〕〔宮前・本間・住吉・立野・長澤2015〕としてすでに文字化している。なお、「うらほろフォーラム2016」当日の全体プログラムについては【別表】参照。

⁽⁵⁾ 〔添田・近江・中村・宮前・高木・今泉2013〕における今泉発言。

⁽⁶⁾ 地域教育分野では、「うらほろスタイル推進地域協議会」と連携した取り組みを「アクティブ・ラーニング」「課題解決型学習」と位置付けている。「地域創造型教師」像を学生たちとも共有し、そうしたビジョンを実現するためのProblem Based Learningであるとも考えている。

【参考文献】

- ・学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議2013『子どもの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐ～地域とともにある学校づくりの推進方策～』
- ・コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議2015『コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの一層の推進に向けて～全ての学校が地域とともにある学校へと発展し、子供を中心に据えて人々が参画・協働する社会を目指して～』
- ・添田祥史・近江正隆・中村吉昭・宮前耕史・高木秀人・今泉博2013「地域教育のこれからと教師・学校の役割」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教育研究』第15巻第1号、pp.1-33
- ・添田祥史・宮前耕史・平岡俊一・近江正隆・阪野真人・野村卓「シンポジウム報告『北海道の自然・教育・まちづくり』」北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』第46号、pp.17-44
- ・高橋康伸2009「地域の伝統や文化をテーマにした実践」佐藤真編『中学校新学習指導要領の展開—総合的な学習編』明治図書
- ・宮前耕史2013「『うらほろスタイルふるさとづくり計画』の成り立ちとその現代的意義—『地域に根ざした学校』論—『地域に根ざした教育』論の立場から」北海道教育大学学校・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門『へき地教育研究』第67号、pp.31-54
- ・宮前耕史2015「現代『地域教育計画』としての『うらほろスタイルふるさとづくり計画』」北海道教育大学学校・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門『へき地教育研究』第69号、pp.61-72

- ・宮前耕史2016『『地方創生』時代における『地域に根ざした教師』像—理論モデルとしての『地域創造型教師』とその養成プログラム開発に向けた研究課題』北海道教育大学学校・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門『へき地教育研究』第70号、pp.53-61
- ・宮前耕史・小林可奈・栗本由佳2013『『うらほろスタイル』から学ぶ地域教育開発専攻・地域教育分野の『地域創造型教師』養成の取り組み』北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』第45号、pp.1-8
- ・宮前耕史・添田祥史2012『地域に根ざした教師養成のためのプログラム開発—『地域参加型マインド』から『地域創造型マインド』へ—』北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』第44号、pp.19-26
- ・宮前耕史・添田祥史2015『『地域創造型』教師養成に向けたプログラム改善—『うらほろスタイル推進地域協議会』と連携した釧路校地域教育開発専攻地域教育分野の取り組み』北海道教育大学『北海道教育大学紀要（教育科学編）』第65巻第2号、pp.95-102
- ・宮前耕史・本間悠資・住吉泰斉・立野里奈・長澤愛里2015『地域のために、ちいきとともに—『うらほろスタイル』から学ぶ地域教育開発専攻地域教育分野の『地域創造型教師』養成の取り組み—』北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』第47号、pp.1-9
- ・宮前耕史・渡邊希美・上山紗耶2014『『うらほろスタイル』から学ぶ『地域に根ざした教師』像』北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』第46号、pp.9-16

【附記】

本稿は、文部科学省科学研究費助成金（基盤研究（C））「持続可能な地域づくりに向けた学校内外における協働体制の構築過程に関する調査研究」（課題番号16K04447）（研究代表者・宮前耕史）による研究成果の一部である。

【別表】「うらほろフォーラム2016」プログラム

○第1部:「うらほろスタイル」の1年

	時間	プログラム
1	9:00	開会
2	9:10	開会挨拶 (浦幌町長・水澤一廣)
3	9:20	来賓挨拶 (文部科学省初等中等局参事官・塩崎正晴)
4	9:25	うらほろスタイル教育の1年 (浦幌小学校校長・水野豊昭) (浦幌中学校校長・平岡弘孝) (上浦幌学園CS担当教諭・川口愛莉、重泉壮生) (浦幌学園CS担当教諭・中野公章、市川祐介) (浦幌小学校教諭・小泉伸二) (北海道教育大学釧路校3年・今西宏美、竹本朱里)
	10:35	(休憩)ハーブティー提供
5	11:45	子どもの思い実現ワークショップについて (子どもの思い実現ワークショップ座長・高室智全) (株式会社マイナビ・大道信広)
6	11:10	若者のしごと創造事業について (若者の雇用創造検討会議委員長・北村昌俊) (浦幌地域おこし協力隊・泉のどか) (株)リレイション・小松輝)

○第2部:パネルディスカッションと分科会

	時間	プログラム
7	12:35	パネルディスカッション(進行・(株)ノースプロダクション代表取締役・近江正隆) (岐阜県立可児高等学校教諭・浦崎太郎) (浦幌中学校教諭・金田学) ((株)リレイション代表取締役、浦幌町地方創生アドバイザー・祁答院弘智) (北海道教育大学教育学部釧路校准教授・宮前耕史) (文部科学省初等中等局参事官・塩崎正晴)
8	14:45	分科会1:地域とともにある学校づくり 開会挨拶(浦幌町教育委員会教育長・久門好行) 分科会リーダー(浦幌小学校教頭・白井将之) コーディネーター(慶應義塾大学特任准教授・木幡敬史) アドバイザー(文部科学省初等中等局参事官・塩崎正晴) " (岐阜県立可児高等学校教諭・浦崎太郎) 分科会2:地方創生とまちづくり 開会挨拶(浦幌町商工会長・竹田悦郎) 分科会リーダー(浦幌町商工会青年部) コーディネーター((株)リレイション代表取締役・祁答院弘智) アドバイザー(サイファー・テック(株)代表取締役・吉田基晴) " (坂東幸輔設計事務所主宰・坂東幸輔)
9	16:55	分科会発表
10	17:25	閉会挨拶
11	17:30	閉会